



九州大学病院別府病院の開院
おめでとうございます

九州大学病院 別府病院の発展にむけての提言 ～外科の立場から～

九州大学名誉教授
おんが病院・おかがき病院 統括院長
杉町 圭蔵

外科部門の歴史

放射能障害に対する温泉治療の研究



(八田 秋名譽教授)

八田 秋先生
S20-S43

生体の侵襲反応制御に関する研究



辻 秀男先生
S43-S62

腫瘍免疫に関する研究



秋吉 毅先生
S62-H10

癌幹細胞の発見ほか



森 正樹先生₃
H10-H20

21世紀における医療環境の変化

1. 生命科学が進歩する中で、疾病の診断方法や治療法が変わってきた...**癌の診療は遺伝子診断・遺伝子治療へ ...再生医療は臓器移植から幹細胞を使った自分の細胞から臓器を作る**
2. 高令化が進み、疾病構造が変わる中で医療のニーズに変化が起こってきた...**Anti-Agingの医療 ...高齢者の医療や福祉**



医療環境や社会環境の変化を敏感にとらえて
研究や医療の方向性を決める必要がある

予言する日本人

明治人のえがいた日本の未来



加藤秀俊 解説 / 竹内書店編集部 編



侵略主義と日米戦争

法学博士 末 広 重 雄

百年後の日本がどうなるかを、具体的に申し上げるほどの想像力を、私がもっておらぬことを遺憾とする。しかし、次ぎのことだけは断言することが出来る。もし現在のごとくわが軍閥が国論を無視して侵略主義を行なうときは、遠からず日米戦争を惹起し、その勝敗如何により、日本の百年後の運命が定まることになる。勝てば英国と相並ぶ大国となり、いよいよアジアの主入たるを得るけれども、負くれば日清戦争前の小日本になりさがることになる。しからば、来たるべき戦争において日本に勝算ありや。残念ながら私は結果をあやふむ。私が多年侵略主義に反対しつつあるは、一にこれがためである。(九・二一・一九)

福沢諭吉 (1835~1901) の予言

(1936年~84年まで主として中津で暮らす)

将来、内視鏡を使って
胃の中や子宮の裏が見れる。

今から100年前に
内視鏡・腹腔鏡の出現
を予言していた



これからの医療

病んでいる人の心を大切にしたい、過不足のない医療が必要である

- 患者参加型医療へ インフォームドコンセント
- 情報が多く、患者の知識が豊富になる セカンドオピニオン
- 科学の進歩に伴い診断・治療法が多様化
- 高齢者の増加で疾病構造に変化
- 訴訟の増加 弁護士急増
- 経営・収益を重視した医療 病院は勝ち組・負け組

よい医療はよい経営から

大学や公的病院は株式会社ではないので、利益を追求する必要はない。しかし、これからは、国や地方自治体からの支援は減少することはあっても、増加することは期待できない。

従って、公的な病院であっても、ある程度の利益を出し、経済的な余裕がないと設備の充実、安全・安心な医療、患者サービス、職員の待遇改善などはできない。

九州中央病院に赴任時に使っていた手術器具



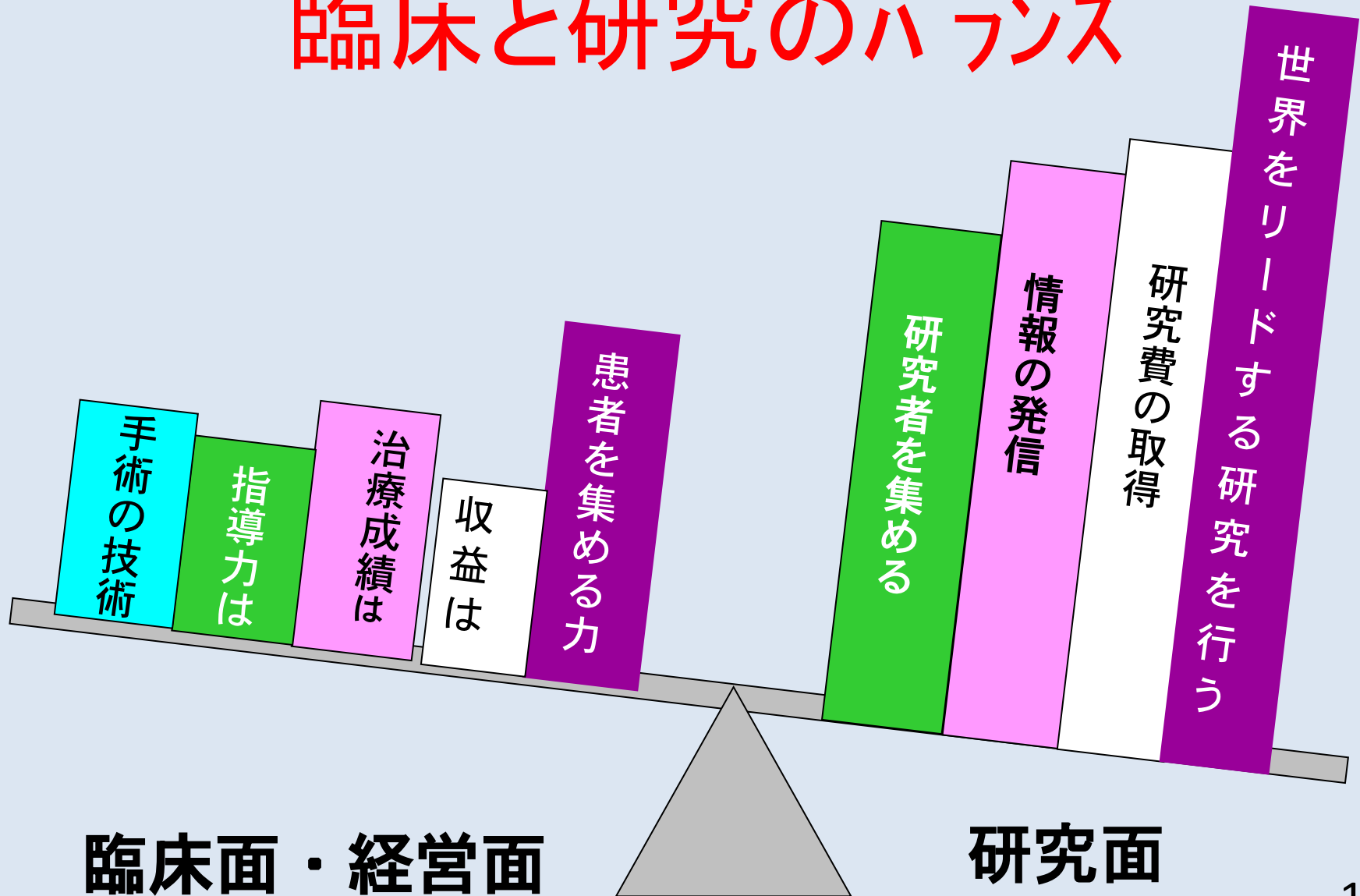
大学人に課せられた責務：

たとえ、臨床医であっても
大学人（研究者）である限り
新しい情報（研究成果）を
世界に向けて
発信する責務がある

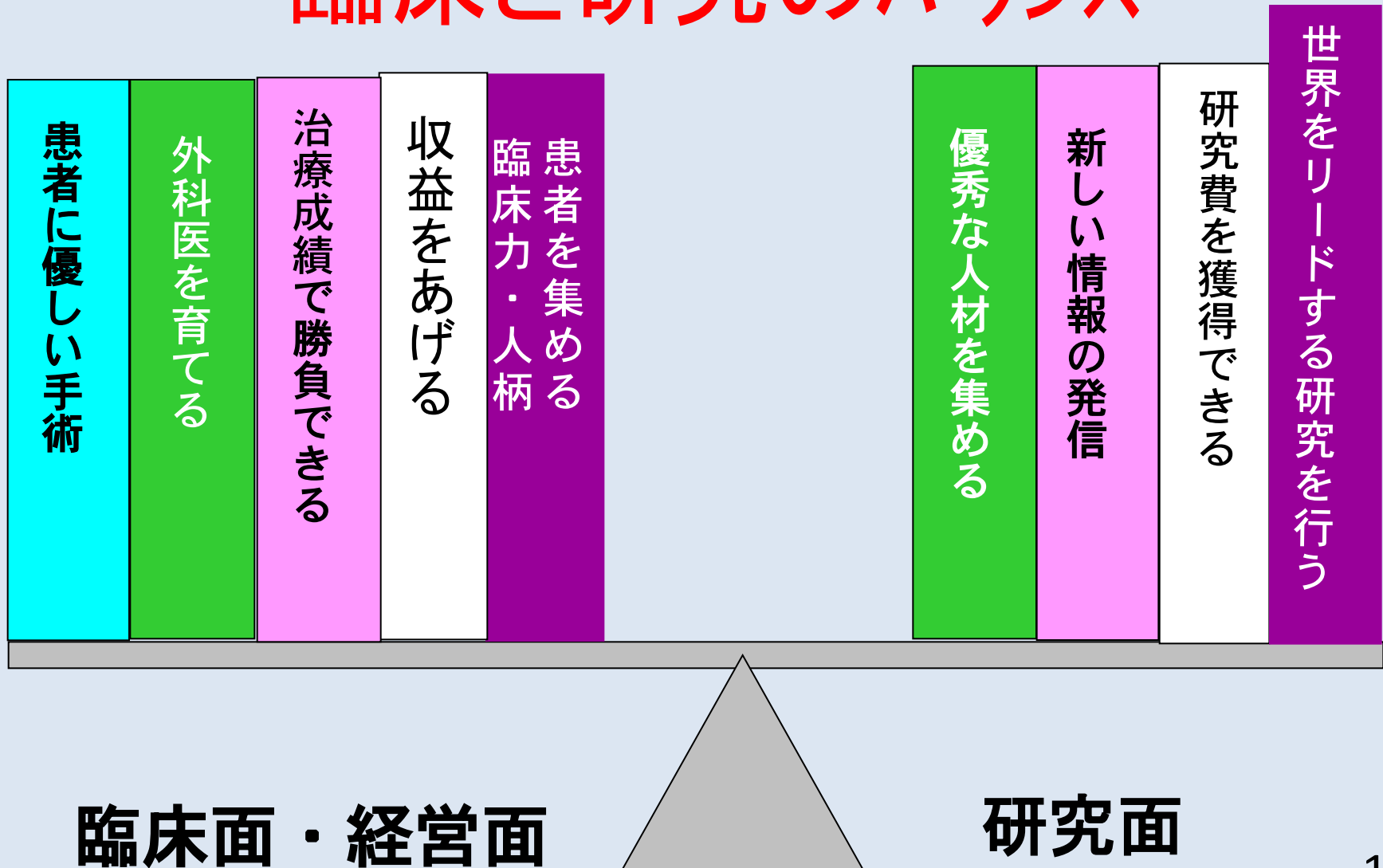
また、同時に収益を上げれる医師でなくては
いけない

大学の外科医には、レベルの高い研究が出来て、
同時に手術が上手い事が求められる

臨床と研究のバランス



臨床と研究のバランス



臨床面・経営面

研究面

癌の多様性

癌は発育するにつれて多様性を呈するようになる

1. 組織学的多様性
2. 免疫原性の多様性
3. 悪性度の多様性(浸潤・転移)
4. 抗癌剤感受性の多様性
5. 放射線感受性の多様性

がん治療の個別化

がん細胞の性質を知る

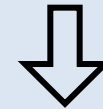


遺伝子検索

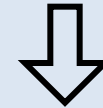


有効な治療法の決定
(放射線療法？化学療法？)

がんの広がりを知る



Micrometastasis
Sentinel Node

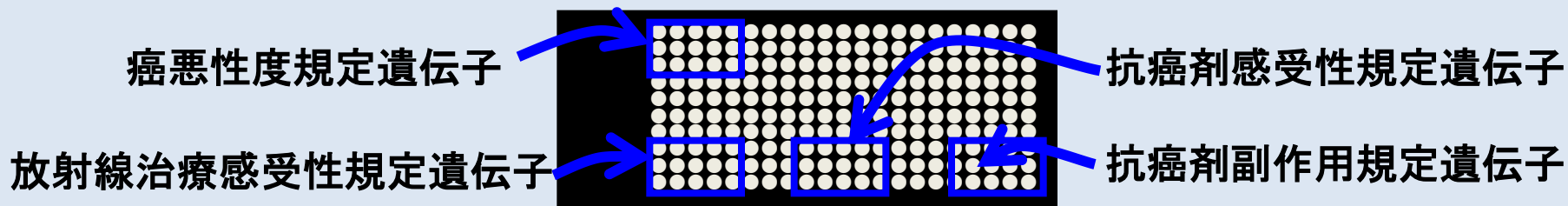


手術侵襲の軽減
手術侵襲の拡大

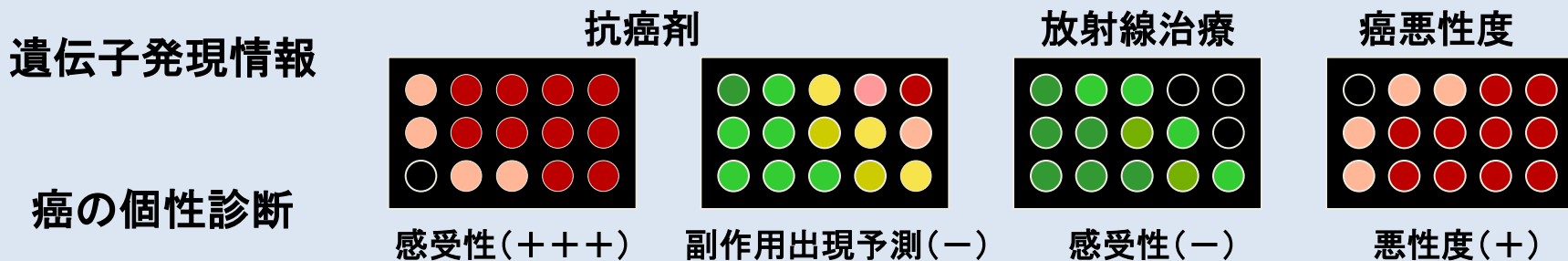
遺伝子から有効な治療法を予測できないか？
微小転移を発見する方法はないものか？

cDNA マイクロアレイを用いた個別化医療

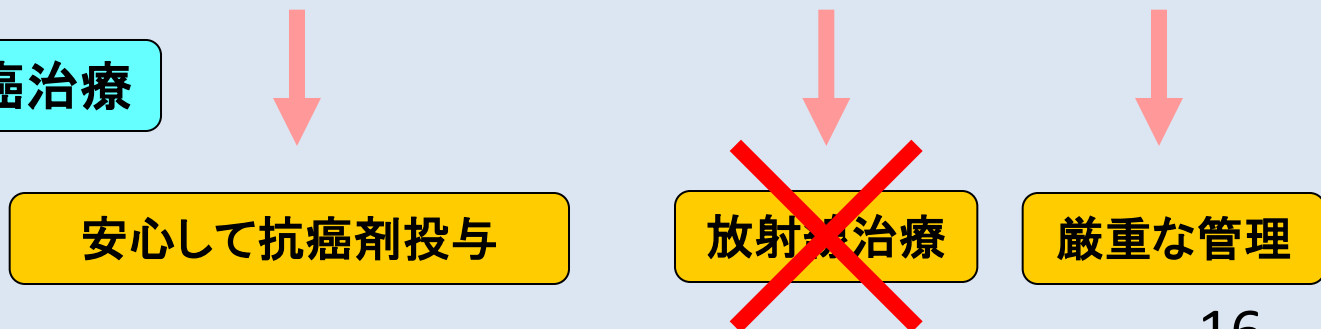
1. 診断用マイクロアレイスライドの作製



2. 個性に基づいた癌診断



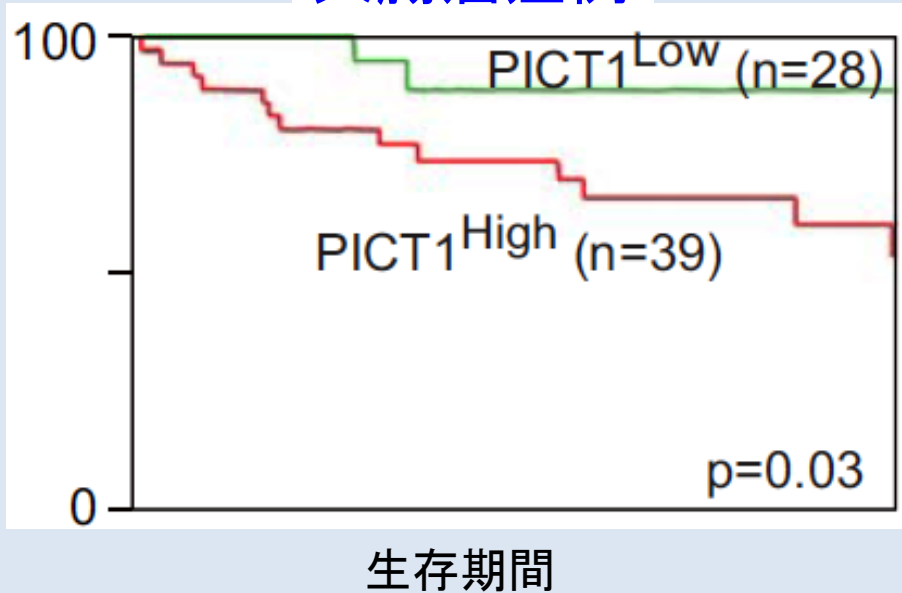
3. 個性に基づいた癌治療



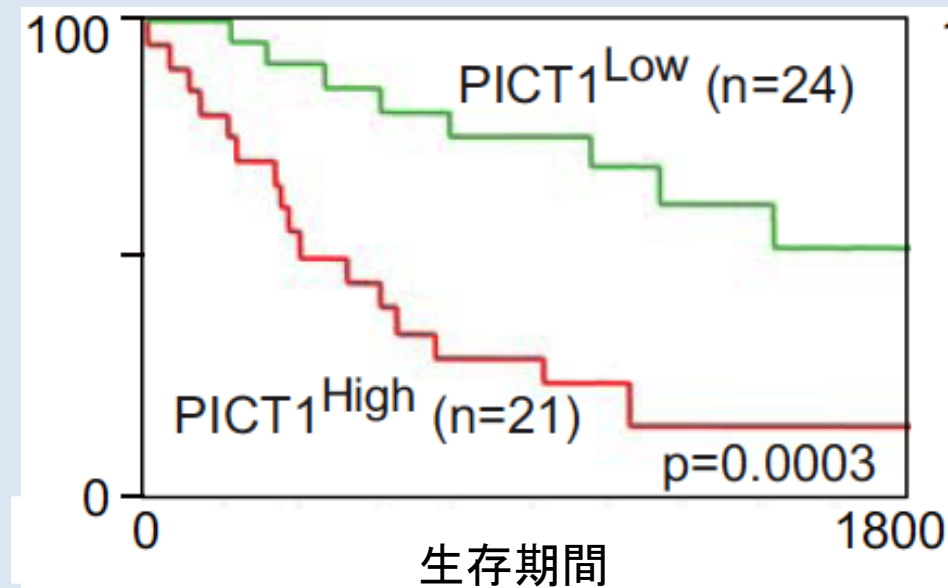
予後予測可能な遺伝子の発見

PICT1遺伝子高発現は癌抑制遺伝子p53を不活化する

大腸癌症例



食道癌症例



p53野生型症例の予後予測が可能になった

癌と幹細胞

- 森正樹教授は大腸癌の組織の中にStem Cellが存在することを世界ではじめて報告 (Stem Cell 2006) されている。
- 癌の増殖とStem Cellとの関係が非常に興味深いところである。
- 癌の化学療法や放射線治療には癌組織中のStem Cellをtargetにする必要があるのではないだろうか？

外科における新規代表 獲得研究費 (最近5年間)

<文科省科研費>

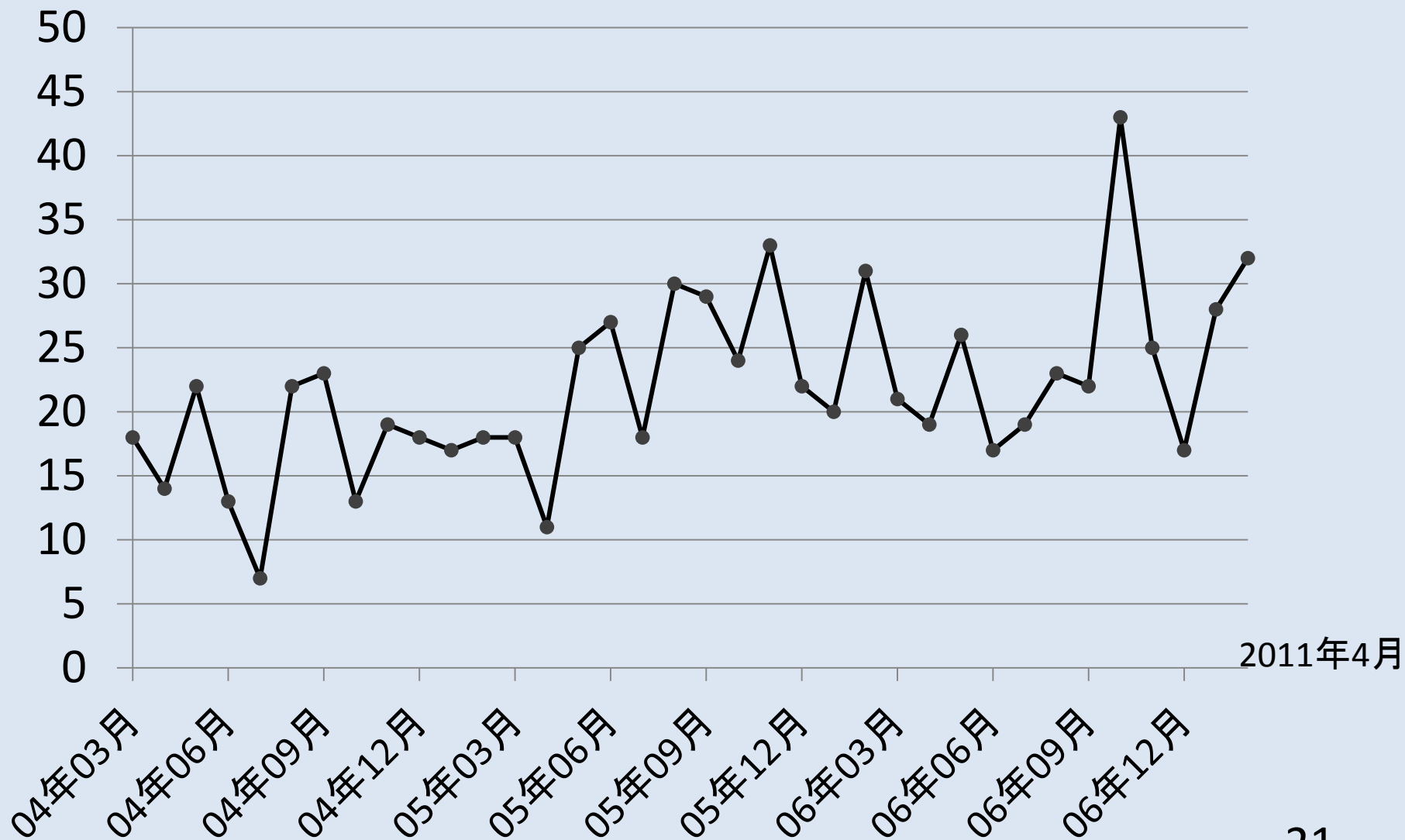
代表者

H18-20	基盤研究(B)	井上 裕
H18-20	基盤研究(B)	三森 功士
H18-19	特定領域研究	三森 功士
H20-21	基盤研究(B)	三森 功士
H20-22	基盤研究(B)	井上 裕
H21-25	基盤研究(A)	三森 功士
H22-25	* 若手研究(S) プログラム助成	三森 功士
H22-25	* 最先端・次世代研究支援	三森 功士

* 赤字は総額1億円以上 過去5年間で7億2292万円 19

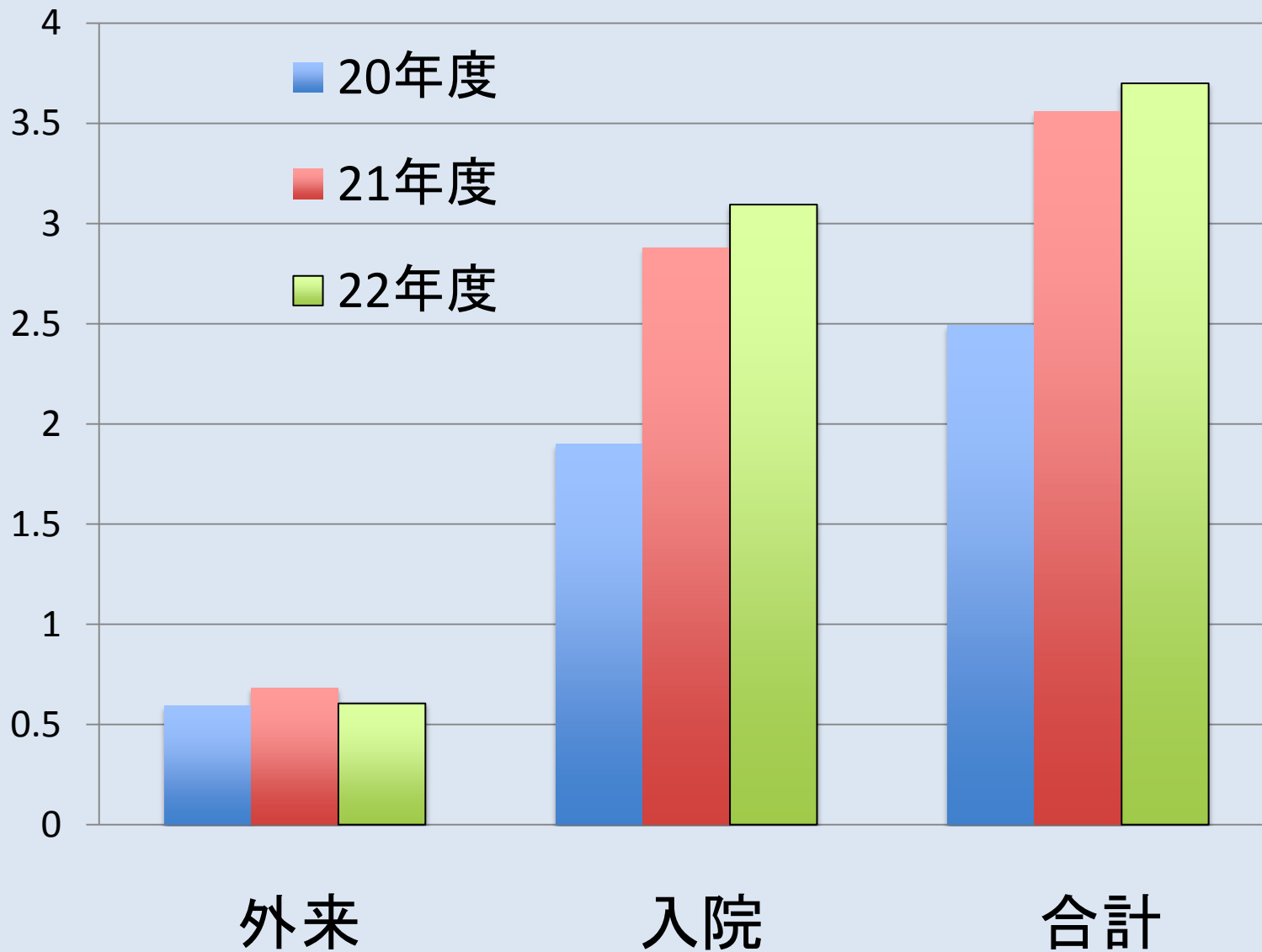
手術症例数

(件)



(億円)

外科診療実績



本院および大分大学との連携



九州大学病院

国立別府
国立大分
新別府

医師・患者・技術



九州大学病院 別府病院



大分大学医学部
附属病院

大分県立
大分日赤
鶴見

地域におけるがん診療病院をめざす！

- (1) 遠隔操作を含め内視鏡による低侵襲手術
- (2) 肝臓癌、膵癌に対する手術
- (3) 進行癌に対する放射線を使った集学的治療
- (4) 最先端医療の推進 (がんワクチン療法など)

他大学とのスタッフの交流

【講師】

大分大学 (6名)

佐藤 浩一 先生(H10.6-H12.9)

松本 敏文 先生 (H18.4-H19.3)

田原光一郎 先生 (H20.4-H20.10)

佐々木 淳 先生(H17.4-H18.3)

石川 浩一 先生 (H20.10-H21.4)

柴田 浩平先生 (H21.5-現在)

長崎大学 (1名)

蒲原 行雄 先生 (H19.4-H20.3)

【助教】

久留米大学 (1名)

主藤朝也 先生

【医員】

東京医科歯科大学 (4名)

慈恵医大 (3名)

大阪市立大学 (2名)

熊本大学(1名)

群馬大学 (2名)

北里大学 (1名)

岩手医大 (1名)

九大病院 別府病院 外科の方向性

臨床と研究のバランスが重要

1.臨床面：

- ①癌診療のエキスパートとなり、地域の最終砦となる・・・
低侵襲手術と高度進行癌 に対する集学的(放射線・化学)療法
- ②本院や大分大学外科とのヒトの交流や連携を密にする・・・全国的に外科医不足は深刻であり、別府には研究者が集まり難いので、これからもスタッフを送ってもらえる環境の整備
- ③収益を上げ、経営に貢献できる外科を目指す

2.研究面：我が国の外科教室では最高のレベルの高い研究ができており、このまま突き進む事で、更なる発展が期待できる。

外部の人間が垣間見た現在の外科

研究面：

別府という環境にも拘らず、多くの**研究者**が集まり、**多額の研究費**が取れており、**素晴らしい研究成果**が上がっている。

臨床面：

久保病院長のご厚意で「九大病院経営協議会」の資料を見せて頂いていますが、別府病院は昇り調子にあります。今回、組織が新たになり、岩本教授のご配慮で整形外科が新設され、本田教授の強力なご支援で放射線治療ができます。

外科は**癌に特化**した治療を行うことで、経営にも貢献でき、**別府病院は必ず黒字**に移行致します。



ご静聴有難うございました

別府病院の益々のご発展を祈っています